

# こども芸術学科

## ■ 教育目標（育成する人材像）

なぜ人は表現するのかという芸術の根源をたずね、人が成長する上で、芸術の果たす役割と幼児教育・保育の可能性を探求します。こどもと関わりながらその存在価値を認め、芸術する心を通して、創造的な保育実践のできる人、他者と支え合うことのできる人、社会に向けてアイデアを発信できる人を育てます。

## ■ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### ■ 修得する能力

|            |  |
|------------|--|
| 探求力        | こどもを取り巻く環境を契機に、世界を好奇心や批判的視点を持って観察し自らの目標や課題を発見することができる。                   |
| 思考力        | 必要な情報を収集、調査し視野を広げ、論理的にものごとの関係性について整理、分析し、理解することができる。                     |
| 発想・構想力     | 視点の転換と創意工夫により、独自のイメージを発想し、制作や実践のための計画を立てることができる。                         |
| 表現力        | テーマや状況に応じた表現方法によって、他者に向けて的確にイメージ提案を具現化することができる。                          |
| 行動力        | 対象の理解に努めながら、自ら積極的にこどもや社会と関わるることができる。                                     |
| 継続力        | 目標に向かって、粘り強く試行錯誤しながら制作や実践を続けることができる。                                     |
| コミュニケーション力 | 自己理解を深め、他者を尊重しながら、気持ちやアイデアを心から表現し伝え、さらに、よりよい人間関係を築き支え合うことが、言語でも非言語でもできる。 |

## ■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「こども×芸術×教育」をキーワードにカリキュラムの中では、幼児教育・保育の理論と方法、造形制作の技術を身につけるとともに、保育実習、教育実習を通して社会実装を行う。そして、実践のふりかえりを通して教育の専門性や芸術表現を生かせる力を総合的に身につけ、キャリア形成をはかる。カリキュラムを通して、こどもの感性、表現をありのままに認めることができる保育者、芸術を通して、社会をよりよくデザインできる創造力とグローバル意識を持って表現可能な人材を育成する。

### ■ 学修方法

- ・ 保育、教育科目を通して「誕生」からの人間の育みを専門的に学ぶ。
- ・ 保育実習、教育実習および地域に根ざした実践的なプロジェクト体験（企画から実行、振り返り）で社会実装をはかる。
- ・ 卒業生やプロの保育者などからのキャリア講演・意見交換を通しロールモデルを獲得する。
- ・ 素材、造形、絵画、デザインの基礎を学ぶことにより感覚を開き、気づきを表現する力、発表の方法、コミュニケーション力を育成する。
- ・ グローバルな環境での幼児教育の見聞を広げるため、オーストラリアの幼稚園研修のプログラムを定着させ、海外の保育所幼稚園教育実践の体験を促す。
- ・ キャリアでは、芸術を通して、こどもを深く理解することができる心を持つ保育者、支援者のほか、こどものおもちゃ、絵本、遊びのデザイン、こどもを取り巻く環境デザイン、テーマパークの企画、運営など、アートやデザインの力で社会をよりよく変えていく人材、グローバル社会を切り開く保育者、芸術表現者として活躍できる人材の育成をめざす。
- ・ 4年間の学びの延長線上で、より深い幼児教育の研究を望む学生へ向けて、留学、大学院への進学を促し支援していく。

### ■ 学修過程

- 1～2年次：幼児教育、保育、福祉などの基礎的な知識や教養の基礎を学び、自分の意見を述べる力とこどもと関わる力とコミュニケーション力を養う。自然や身近な素材研究、作るための記述、プロセスの検証を身につけ、「こどもごころ」に通じる豊かな創造力を呼び起こす。
- 3～4年次：「ひらく、感じる」をテーマに、こども×芸術×教育のもと、それぞれの到達目標を設定し、制作や社会参画をより促し展開させる。卒業制作に向けてのテーマ探求、素材選び、表現方法、制作計画のプロセスを通して自己形成を目指す。同時にゼミでの学生指導を通して、キャリア教育の成果を出す。